

曇野市男女共同参画推進審議会 会議概要

1	会議名	第6回 安曇野市男女共同参画推進審議会（第5期）
2	日時	平成29年8月21日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	安曇野市役所 3階 共用会議室305
4	出席者	大日向委員、田中委員、松村委員、高嶋委員、望月委員、二木委員、 増田委員、三澤委員、秋山委員、降旗委員、宮下委員、湯澤委員、 田村委員 (欠席委員) 清原委員、小松委員、小林(栄)委員、小林(知)委員、 小林(久)委員
5	担当課出席者	堀内部長、高山課長、山口係長、塩原主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成29年8月25日

協 議 事 項 等

【会議事項】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 第3次安曇野市男女共同参画計画の「施策の体系(案)」の[施策の内容]及び[具体的な事業]について
 - (2) [社会像]について
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

【会議概要】

- 3 協議事項
 - (1) 第3次安曇野市男女共同参画計画の「施策の体系(案)」の[施策の内容]及び[具体的な事業]について

【要旨・主な意見】

[施策の内容]及び[具体的な事業]について事務局説明

会 長：意見、質問をお願いしたい。

委 員：結婚に関する相談窓口の充実・活動の充実を図って欲しい。若い人達は、婚活をしたくても機会に恵まれないという声がある。

委 員：施策の内容について不要だと思う。「(1) 男女共同参画社会づくりの意識の普及、(2) にて世代間交流による男女共同参画の意識啓発」が、啓発という言葉を使うと、施策の内容になってしまわないだろうか。具体的事業についても、施策の内容と言葉が重複してしまっている。事業欄は、具体的な言葉とすべきではないだろうか。また、市民

が読んで理解できるかが疑問である。たとえば、「男女共同参画の視点に立って」という文言は、「視点」というものがどういうものなのかを説明してもらいたい。

事務局：それぞれの事業の上で、男女共同参画の視点から考えるということは、アンケートの段階でもどういうことなのかと課題になった。自治体は国の方針に則って行政運営をすることになるが、事業を行うときに、女性の進出しやすいような配慮する、という目に見えない部分で女性の背中を押すことで、女性が出やすい環境を整えていくことを目指している。アンケートの結果で、「不平等」と思う人が7割いる。男女共同参画を進めるということは、この「不平等」と思う人を減らしていくことも、大事な点の一つと考える。

委員：2ページの(5)。男女共同参画の視点に立った保育・幼児教育を推進するということについてだが、具体的な事業には「人権を尊重し、男女共同参画の視点に立った保育・教育を進める」と記載されているが、同じことの繰り返しになっている。この計画は、誰を対象とした計画なのかが見えてこない。

事務局：具体的な事業については、各課でどのように男女共同参画を位置づけていくか考えてもらいながら出てきた事業の内容である。市民に広報する段階では、市民に分かりやすいものにしていくように考えている。

委員：最終的に市民向けに出るものについて全体像が見えないので、資料やダイジェスト版の位置づけがどうなるのか作ってほしい。「最終的にこういうものを作りたい。」ということが示されると良い。

会長：まずはそこへ行く前に、各課の挙げた事業について足りない点を指摘していただきたい。次の段階で、委員のご発言の内容の検討が必要となってくる。

委員：一番大事な点は、各々の具体的な事業ではないか。これをどのように進めていくかによって、男女共同参画が良い方向に進んでいくということに繋がっていくと思うが、全体としての統一性に欠けている。それぞれ『何のために』『何を』『どのようにする』のかの3点を全部の統一として記述してもらえると分かりやすい。そうすることによって、効果が上がっていく。単なる条例・計画に終わらずに、何を、どのようにするかが、示されてない施策もある。そういう点も配慮して記述してもらえると、より効果的だと思う。

委員：各事業を事務局側が集約して重複しないように記載して頂けると分かりやすいものになっていく。次の段階では、もう少しまとめていただけるとありがたい。また、報告書を見て、外国人側からの意見はよく分かる。私の住む地域にも外国人が住んでいて働いているが、私達が外国人に対して思うことは、彼らに挨拶をしても返ってこない。せめて、挨拶だけでもできるようになれば、もう少し彼らも暮らしやすいのではないかと思う。

委員：あたりさわりのない内容に見受けられる。熱意が伝わってこない。市民に伝わるような内容を考えて欲しい。事務局は、審議会で出た意見とし各課に促したらどうか。

事務局：各部署に男女共同参画の視点から考えてもらいたい、伝わらず温度差があるのが現状。部署から出てきた具体的な事業は、当たり前のことを当たり前に行おうとする記述にも解釈できる。各部署からの回答をそのまま記載してしまったことも、反省点である。ヒアリングを各課ごとに行い、深めていく必要があると感じている。「具体的な事業」に関して言えば、計画の中に載ってくるが、さらにその横に「具体的な指標」、「それを実現させるための方法」のようなものを記載する欄があったが、その部分の記載がない項目も多かった。これらは計画書には反映されないが、第3次計画が出来た段階で審議会に

て、「今年度はこれを重点的に」と提示して頂き、年度末には到達の度合いを審議して、具体的な事業を挙げて頂いたらどうかと考えている。

会 長：課の間で温度差があり、その点を説得することが大変ということ。全国を見ると男女共同参画の宣言をしている市もあり、そういった自治体では、職員の意識も違っている。戦後 70 年経過して、社会が変化してきているからであり、その変化の過程の中で、社会を動かしているのは男性だけであった時代から、女性も社会に参画していかないとやっていけない環境となってきた。男女が共に認め合い、理解し合い、家族も地域も作り上げていくということが男女共同参画社会づくりの視点。しかし、行政が推進しても市民に伝えられないというのが現状。市民まで、男女共同参画社会の意識を伝えていくのは、トップリーダーに気概があるかどうか、ということであり、職員にも熱意が伝わるか否かにも関わっているのではないか。

委 員：各課で、何を、どんな目的で、どんな状態にするかを具体的に考えていただきたい。そうすれば、節目の時に成果を把握できるので、決めておくべきだと思う。

委 員：市民アンケートの報告書を見て、男女共同参画への理解度は年代別に開きがあると思う。今の子育て世代は、男女共同参画が当たり前になっている。やはり、啓発・研修等、年代別の対策を考えていく必要があるのではと思っている。

会 長：年代で、かなりの差があり、若い人は、あまり言わなくても実践している。年代別の施策という視点も大事なことだと考える。

委 員：「社会像」案が 3 つあるが、このように誰でも「あ、なるほど」と思えるものほど、心に通じると思う。社会像の案のように市民の皆さんの心にすっと入っていけるタイトルをそれぞれ考えてもらおうと、より高い広報・普及の効果があるのではないかと思う。

委 員：市が組織として一つに考えを合わせていかないと推進がうまく行かない。講座、フォーラムなどを市民主体で、と述べられていても、誰が主体かはっきりしない。今、元気に各種活動に励んでいる人がいる。ボランティアであったり、社協の関係者であったり。そういう人たちを集めて提案することを通していくと活気のある活動ができるのではないか。様々な事業で、人材登録のようなものを行っている人がいる。そういう人たちを活用していくべき。やりたい人はいっぱいいるので、せっかく登録して下さったのだから、具体的活動のために利用すべき。

委 員：男女共同参画は多岐にわたるので、一気に解決するのは難しい。私達は推進を審議するという役目。皆で思う所を忌憚なく話をしていけたらよいと思う。全て解決するのは難しいので、一つひとつ地道に解決に向けてやっていくべきことだと思う。

委 員：施策の体系の骨子をつくる段階にあるため、出来れば方法と施策と内容を、私達が更に検討して、それが固まってから、具体的な事業について市全体のこととして事務局が集約して記載していただくと分かりやすい。範囲を決めて段階を踏んで審議していくように進めていくと分かりやすいと思う。

委 員：各課の事業で優先課題があるので、なかなか男女共同参画社会という視点からは考えられないことも多いと思う。各課の男女共同参画社会に向けた事業を吸い上げる方法を考えてほしい。また、指標のことについて出ていたことだが、全てを指標化することは難しい。成果を見る目安について考えたらどうか。また、啓発の話が出たが、「湧愛」が出ているが、配布状況を教えてほしい。

事務局：現在は、主として区の回覧にしている。また、市の出先支所、公民館、図書館、小中学校、社協には配布・設置している。事業所については、現段階では個々に送付していない。議会でも指摘があり、内容を事業所向きのものも取り入れて啓発ツールとして定着させたい。現在検討している。

委員：今の内容では、事業所向けには弱い印象がある。このなかでも、事業所に周知するという事も謳っているのでは、ぜひ検討してもらいたい。

委員：もうひとつ気づいた点があり、行政の文体の傾向は一般の人にはなじまないのでは、受け入れられやすい表現を心がけて欲しい。

事務局：次回の審議会までに、前後に文書を付け加えた計画書の原稿段階のものを提出したい。冊子になる前の段階のものを検討していただきたい。統一性のある内容にすること、市民が見て分かりやすいものにするということ、市民の皆さんがより受け入れていただける文体にすることを心掛けて作成していきたい。

(2) [社会像]について

会長：施策の体系の社会像の審議に入る。

事務局：事前送付の3つの事務局案について説明。①理解し合い 認め合い 未来へつなぐ安曇野 ②理解し合い 認め合い 輝いて生きる 安曇野 ③理解し合い 認め合い ころころ通い合う安曇野。この3つを提案する。「理解し合い 認め合い」という点が共通しているが、事務局としても、この言葉は、男女共同参画に限らず、人間社会に不可欠なことであり、それにふさわしい表現だと思う。しかし、理解し合わないままの「認め合い」は、ともしれば、価値観の押し付け合いになってしまうこともあるのではないかと。①案においては、男女共同参画の意識づくりに着目したフレーズとした。アンケート調査の中から世代間のギャップへの声が多かった。それぞれの世代の人生の背景を知ることが大切であり、次代を担う人たちには男女共同参画社会になって欲しいという意見もあり「未来へつなぐ」とまとめた。②は女性活躍に重点を置いたフレーズとした。アンケートの回答のなかで職場の中でのジェンダーによる差別に悩む声もあった。男性・女性がそれぞれ理解し合いいきいきと生きることをイメージした。③は一人ひとりが大切にされる社会に重点を置いたもの。健康づくり、防災、外国人住民との関わり地域でいきている人の心が通い合うことが大切ということに着目したものとした。

委員：支え合いという言葉もあってよいのではないかと、男女に限らず様々な人支え合うことが大事なのではないだろうか。

委員：社会像を決める以前にまず、市民の人権意識・人権感覚についてはどうなっているのだろうか。その認識はどうなっているのかを考える必要があると思う。次にその上に立って男女共同参画の理念の構築を市民にはしてもらいたい。一つひとつのことを振り返って考える、という積み重ねで考えてもらいたい。最終段階として、初めて女性が活躍できる環境はどうすれば良いかを考えることができるのではないだろうか。基礎となる人権意識があって初めて、その中の一つである、地域・社会における男女共同参画の意識について考える事が出来るのではないかと。

委員：社会像は十人十色。余韻のあるなにかがあればよいと思う。人によって違って来るだろう。互いに支え合い、住みよい安曇野を築いていくベースとなる所であるので、そのような思いが伝わる表現があればよいのだが。

委員：第2次計画の社会像は「絆でつなぐ」とある。今回の案は、直接的に「男女共同参画」に結びつくのが難しいので、「男女共同参画」という言葉が入った方がよいのではないか。

委員：(案)の言葉はとてもよいと思うが、3つがうまく一本化できれば良い。

委員：わかりやすいことも重要。読んだ人が自問自答して考えられる余韻を残すことも大事。「理解し合い」も大事。「認め合い」も大事。心が通い合う事や、輝いて生きることも大事だが、固執して大きなことを言うてしまうと、実現できるかどうか、大丈夫かなと思ってしまうので、3つのフレーズがうまく合わさればよいかと思う。

委員：見たときに解釈が難しいと思った。あちらの言葉を入れるとこちらがない、ということになり、社会像は何を言いたいのかという疑問があります。

委員：社会像の文言は、みんなが注目するようなフレーズにして、計画の冊子を開いて市民に見てもらいやすいものにするべきだと思う。

委員：どれになっても良い。いずれも大切な事柄だと思う。

委員：②の「輝いて生きる」のフレーズが良い。

委員：私は一つ考えてみた、「みんなが参加 思いやりで 平和で住みよい安曇野をつくろう」。題目がどうこうではなく、誰もが手を挙げて参加できる社会づくりを目指すのが理想なのではないかと思う。

委員：社会像は、的確な表現がよいのか、柔らかい、見てもらいやすい表現がいいかが難しい。私はどちらかというと、柔らかい表現が良いが、どちらがふさわしいかの判断は難しい。

事務局：端的なものがいいか、感性に訴えるフレーズにするか迷った。計画書全体の原案を資料として、次回審議会を開催したいと考えているのでご意見を頂きたい。

(3) その他

委員：外国人住民のアンケートについてその内訳が知りたい。

事務局：出身国が1名という国もあり、出せないものもある。国籍の割合が載っているので参照されたい。

部長：「男女共同参画」の意識を全庁に広めることは、本来全員が念頭において仕事を進めていかねばならないが、所管する課が専属で行っていけばよい、という組織の悪い所が出てきてしまっているのが現状。その点をどのように払拭していくかということが、私どもの努めだと思う。全体の体系については、次回には計画の冊子の基礎となるものが出せるようにしたい。社会像についてご意見をお寄せいただきたい。

事務局：次回予定は9月の最終週を予定し、開催を通知するのでお願いしたい。